

Q：幼児の運動指導の基本として重視すべき点を教えてください。

A：

1. 規則性や競争性の強い活動の早期導入を避けること

幼児には、ルールの複雑さや勝敗へのこだわりを持ち込まない運動環境が求められます。

競技的な構造が強いスポーツや、勝ち負けを早期から強調する活動は、幼児の発達段階には適しておらず、「できない」「負けた」という経験が運動への否定的感情を生む危険があります。つまり、発達段階に即した、非競争的でルールの柔軟なあそびを取り入れることが望まれます。

2. 命令一辺倒の指導ではなく、自発性・自己決定性を育てること

幼児にとって運動は、「やらされるもの」ではなく「やってみたい」と思えるものであるべきです。

指導者の一方的な指示やパターンにはまった動きの強制は、子どもの自主性や創造性を奪います。「自分で考え、自分で動く力」こそが非認知能力の基礎となると伝えていきたいです。

つまり、子どもが運動の方法を自ら工夫し、発見する機会を重視すべきです。

3. 多様な運動体験を通じて、興味や好奇心を引き出すこと

特定の運動スキルを早期に習得させようとするのではなく、様々な身体の使い方を体験する中で、身体への気づきや運動の楽しさを引き出すことが大切です。

(前橋)は「動きの引き出しを増やすこと」が、後の専門的な運動スキル獲得にもつながるとしています。「動きの多様性」こそが、将来の運動への可能性を広げる鍵です。

要は、幼児期の運動指導においては、「技術」や「成果」ではなく、あそびを通じた自発的な身体活動の楽しさを保障することが本質です。

発達段階に即した環境づくりと、子ども自身の主体性を尊重する指導を通じて、すべての子どもが「からだを動かすことが好き」と感じられるような体験の提供を目指していくことが重要と考えます。

(前橋 明)